



銀杏の大樹に見守られ半世紀

～有浦小学校 創立50周年～

有浦小学校は、今年、創立五十周年を迎えました。十一月二十日同校体育館で行われた記念式典では、児童や父兄、職員、来賓など約六百人が出席し、意欲と希望に満ちた五十年間の歩みを振り返り、二十一世紀へ向かってたくましく前進することを誓い合いました。

同校は、昭和十五年四月一日大館第三尋常小学校として創立。校歌で「一等美田に校舎を建てて」とうたわれているように、田んぼの中にどっしりと構えたスタートでした。

「かしこく、ゆたかに、たくましく実践する子どもの育成」を教育目標に、校庭にそびえ立つ銀杏の大樹に見守られながら頼もしく成長し、巣立った児童は五、八八七人に及びます。

記念式典では、「歴史をふりかえり、未来へはばたけ有浦っ子」のテーマで十一月一日に行われた記念児童集会のビデオ紹介や、四年間にわたるベルマーケ活動で購入したグラウンドピアノの披露演奏会などを行い、五十周年を祝いました。

50年のあゆみ

□15・4・1 大館第三尋常小学校として創立。以来校名を、大館第三国民学校、町立有浦国民学校、町立城北国民学校、町立有浦小学校と変更。26年4月1日から現在の市立有浦小学校となる



旧校舎の全景

- 16・6・14 校舎竣工
- 25・6・15 校歌制定
- 37・1・21 完全給食開始
- 48・8・2 プール完成
- 51・12・17 学校火災、全焼
- 53・10・16 新校舎竣工
- 54・3・23 アナライザー設置
- 58・11・11 58年度優良PT A 文部大臣賞受賞
- 61・4・18 創意工夫育成功労学校として科学技術庁長官賞受賞

農道四羽出線、寺崎線完成

全面アスファルト舗装に

市では、農産物の搬出入の効率化や農業経営の安定と維持管理費の節減などを促進するため、年次計画で農道の整備事業を実施しています。

本年度は、昭和六十三年度から着手してきた団体営農道四羽出線と寺崎線の二路線が完成し、九月二十日から供用開始いたします。

四羽出線は、既設農道の幅員が狭く大型農機等の通行が困難であったことから、その拡幅改良を行ったものです。県道大館鷹巣線・館地区から水田地帯を直進して、市道大館比内線・下四羽出地区を結ぶ全長九七二メートル

で、全幅六メートルのアスファルト舗装。受益面積は三九〇平方メートル。

また寺崎線は、大館市陣ノ腰と比内町寺崎間、全長一、二七四メートル、うち大館市側九〇四メートル、比内町側三七〇メートル。全幅六メートル、受益面積は七五〇平方メートルとなっています。畑地を走るこの農道は、路床が軟弱で路面の損傷が甚だしく、農作物等の搬出入に支障を来していたため、その改良舗装を行ったものです。

この二路線の完成に伴う受益農家にとっては、農産物の荷傷み防止をはじめ、農業の近代化、効率化への「飛躍の道」となることでしょう。

